

事務事業評価シート

H28(標準事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	19116-1	生徒指導充実事業	室名	教育研究室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財	会計 一般会計
	基本施策	01:子どもたちの学びと健全育成	務	款 教育費
施策体系	施策の方向	06:すべての子どもの学びを支える教育の推進	科	項 教育研究費
	戦略プロジェクト		目	目 教育研究費

② 目的・概要	対象	亀山市内小中学校児童生徒
	目的	問題行動が複雑化・多様化し対応・解決が一層困難な事例に対して、個々の児童生徒の実態把握やいじめ、その他の問題行動の予防と対策を行う。
概要		対応の難しい事例に対して、法的心理的な専門家による検討委員会を開催し、問題行動への未然防止や事案発生時に適切な対応ができるようにする。

			27年度	28年度
①	名称	亀山市学校問題調査検討委員会の開催	計画値	
	補足	保護者対応など、対応困難な事例に対して、適切に解決するための検討会議を開催する。	実績値	3
②	名称	学校満足度調査(QU)の実施	計画値	
	補足	いじめの未然防止、居心地のよい学級づくりのために児童生徒の実態把握を行う	実績値	1~2
③	名称	生徒指導・問題行動導報告件数	計画値	
	補足	当該年度中発生した市内小中学校における生徒指導・問題行動の報告件数	実績値	82
④	名称		計画値	
	補足		実績値	85
			単位	回
			単位	回
			単位	件
			単位	件

年度計画				年度実績				
④ 事業の計画・実績					<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校問題調査検討委員会の開催(2回)</li> <li>・学校満足度調査(QU)の実施(市内の小学3年生~中学3年生全員)1回</li> <li>・適応指導教室実施のカウンセリング</li> <li>・いじめ・巡回相談員のカウンセリング</li> <li>・生徒指導対応における生徒指導携帯電話の活用</li> <li>・いじめ関連条例の策定</li> </ul>			
	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	732	平均給与額×③	
	国庫支出金		1,591	1,434	一般職員人件費 ②	732		
	県支出金				所要人員 ③	0.10		
	地方債				臨時職員人件費 ④			
	その他				受益者負担額 ⑤			
	一般財源		1,591	1,434	受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥	
	再掲	翌年度への繰越額						
		前年度からの繰越額						
		総人件費		①	732			
	総コスト		⑥	2,166				

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の問題発生件数は平成27年度とほぼ同等である。各校で認知するとともに、素早い対応が進められている。</li> <li>・学校問題調査検討委員会での協議により、困難な事例においても、専門家の意見を反映した適切な対応を取ることができた。</li> <li>・カウンセリングやQU調査を実施することで、不登校やいじめにつながる事案の早期発見・対応ができた。</li> </ul>	総合判定	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p> <p>順調に進んだ</p>
	【反省点・課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒間暴力や対教師暴力の件数を減少させること。</li> <li>・問題行動の低年齢化傾向への対応。</li> <li>・不登校児童生徒を減らしたり、未然防止するための、適切な取組を充実していく必要がある。</li> </ul>		
	【改善の方向性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで以上に、居心地のよい学級づくりのための研修会や 発達段階に応じた指導のための研修会を開き、暴力行為・いじめ・不登校の未然防止のため取組を継続して行い、教員の力量を高める。</li> <li>・学校内や学校間での情報共有を行い、迅速な初期対応ができるように、専門機関や関係機関との連携を行っていく。</li> </ul>		
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 教育研究室長 徳田 浩一	